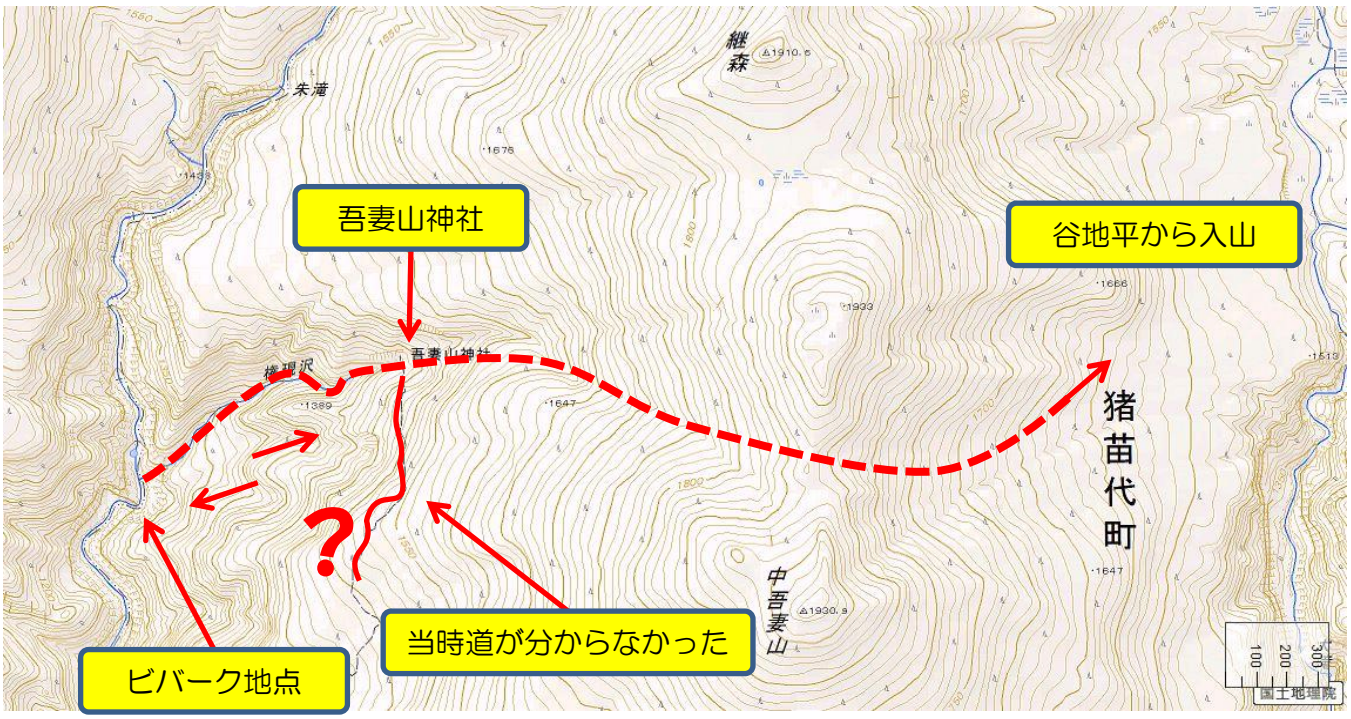
中吾妻山道迷い（1973年）

ガイドブックとはかなり話が違う。深い根曲がり竹の薮が続き、斜面の上側からの倒木が道をふさぐ。沢で1日ビバークをした後、猛烈な藪を漕ぎ中吾妻山を乗り越え引き返した。



解説

1973年の道迷いの記事。内容は古いが道迷いを経験後の脱出方法等で参考になる。以下青字はHP本文。

「浄土平→谷地平→中吾妻への山道へと登っていくと、ガイドブックとはかなり話が違う。深い根曲がり竹の薮が続き、斜面の上側からの倒木が道をふさぎます。中吾妻山の乗り越しから、いよいよ中津川の谷に向かって下降を始めると、踏み跡は笹薮の中に消えてしまい、猛烈な藪こぎになりました。地図上の枝沢（権現沢）の上部を横切る場所で、いったん踏み跡を確認したものの、対岸の登り返しでまた猛烈な藪に。とにかく方角だけは間違えないようにほぼ西へ、下降を続けました。ときどき倒木があると、上に乗って地形の確認。権現沢を下流部で渡る地点が近いと判断して、この枝沢に再び下降しました。ものすごい藪を重力にまかせて上から押しのけて、ともかく下へ。ようやく権現沢の沢床へ降り立ちました。私たちは、この時点で初めて、自分たちが引き返すのもたいへんな道迷いに直面していることに、気づかされたのでした。」
（※道迷いに気づくまでは、がむしゃらの行動をとる場合が多い。注意したい。）

「ビバーク地点で見つけた踏み跡を頼りに、中吾妻を登り返すことに決めました。しかし、登り返しの薮コギが待っています。その踏み跡は、すぐに消失して、2時間余りの彷徨。ようやく、前日に使った、とぎれとぎれの踏み跡に出ることができました。」
（※登り返しの藪漕ぎが困難でも解決の近道がこの行動！）

「吾妻山神社を、私たちは現在地確認のため探したのですが、記録によると神社は人工物ではなく、沢の岩と釜などが「御神体」でした。そのことを事前に知っていれば、地図で想定した現在地にもっと自信が持